



キンギョは、どんな卵をいつ産むの

4月～5月が卵を産む季節

キンギョは、水温が20前後になる、春から夏にかけて、卵を産みます。

このころになると、メスのキンギョは、卵でおなかを、ぷっくりふくらせてきます。その卵をもったメスを、オスがさかんに追いかけてまわしはじめます。そうすると、卵を産む時期が近いということです。卵を産む時期が近くなると、キンギョのメスの体から、特別のにおいが水中に出るようになり、そのおいで、オスがメスを追いかけるようになります。

大きさ1ミリくらいのすき通った卵

オスに追いかけられ、おなかをつつかれたりするうちに、キンギョのメスは、水草におしつけるように、卵を産みます。卵は、大きさが1ミリメートルくらいの、すき通った丸いつぶで、水草にくっつきます。そのままにしておくと、キンギョが食べてしまうことが多いので、すぐ、水草ごと別の水そうに移してやります。

水を取りかえると、産卵する

卵を産むのは、水面近くが多いので、キンギョモなどの水草を、たばねて水面にかせておくと、卵がうまくくっつきます。また、古い水そうの水を取りかえると、そのしげきで、卵を産むことが多いといわれています。（監修・安部 義孝）

